

ALL MAP



紹介した全スポットを掲載

信楽焼以外にもある 滋賀の焼き物

古くから焼き物づくりが行われてきた滋賀県。地域ごとに異なる風土や歴史、信仰や生き生きとした暮らしの中から様々な焼き物が生まれました。ここでは滋賀で培われてきたその他の陶磁器をご紹介します。



わびさびを感じる茶陶「膳所焼」

1600年代に全盛期を迎えた膳所藩の藩窯。作品は主に大名が贈答用に用いる茶道具が多く、わびさびの中に美しさや豊かさを加えて調和の美を目指した“きれいさび”といわれる上品なつくりで、薄作りと黒みを帯びた鉄釉が特徴です。時代の変化とともに一度は衰退し、廃絶。1919年に新生膳所焼として再興され、現在は茶器などの制作が行われています。膳所焼美術館の敷地内には茶室があり、入館者は膳所焼で抹茶をいただくことができます。

膳所焼美術館

TEL 077-523-1118
住所 滋賀県大津市中央1丁目22-28
WEB <http://zezeyaki.jp/zezemuseum/>

営業時間 10:00～15:00
定休日 月・火曜日(祭日は除く)※12/28～1/7は休館
料金 大人900円/高校生以下500円(抹茶付き)



城下町で栄えた幻の名窯「湖東焼」

湖東焼は、1829年に彦根城下の商人が始めたやきものです。後に彦根藩の直営となり、大いに発展しました。しかし1860年に井伊家13代当主直弼が桜田門外の変により亡くなると、縮小を余儀なくされ、1862年には藩窯が廃止されました。藩窯時代の湖東焼は、全国から名工が招聘され、染付や色絵などの多様な技法で制作されました。その品質は極めて高いものでしたが、操業期間は短く製品の量が少ないため、幻のやきものと呼ばれるようになりました。

彦根城博物館

TEL 0749-22-6100
住所 滋賀県彦根市金亀町1-1
WEB <http://hikone-castle-museum.jp/>

営業時間 8:30～17:00(入館は16:30まで)
定休日 12/9, 12/25～31, 1/27～31, 3/4 ※その他臨時休館する場合がございます。
料金 大人500円/小学生250円



人々に親しまれる日常の器「下田焼」

1750年頃、当時この地域に住んでいた村人が近隣の山で陶芸に適した粘りのある土を見つけたことから下田焼は始まりました。「呉須」と呼ばれる藍色の鮮やかな色合いが特徴で、湯呑みやお茶碗などあらゆる種類の日用雑器が作られました。1989年に最後の作り手が亡くなり廃窯に。その後、地元の人々によるバックアップで5年後に再興し、現在は制作とともに絵付けや作陶の体験教室も開催されています。

近江下田焼陶房

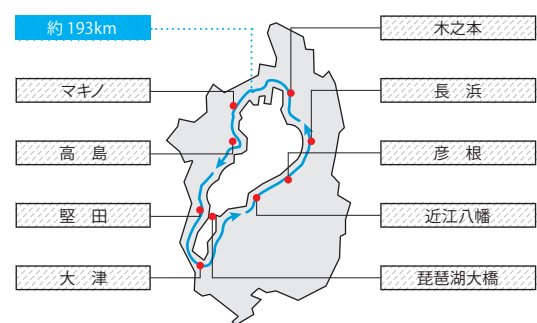
TEL 0748-77-7457
住所 滋賀県湖南市東幸2丁目11-9
WEB <https://shimodayaki.com/>

営業時間 10:00～17:00
定休日 月・火曜日(その他出店などで留守にする場合があります)
料金 無料/絵付け体験は850円から(要予約)

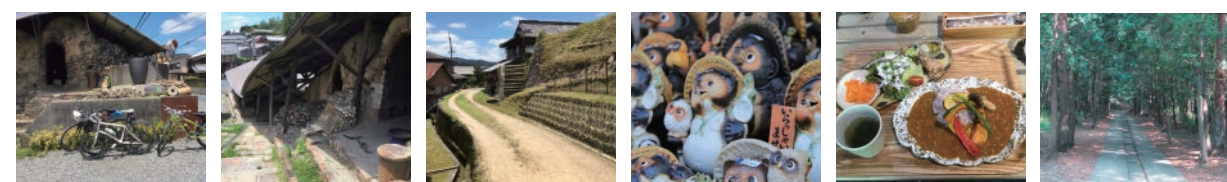
ビワイチ ～ 陶芸の里 信楽でのサイクリング～



NHK朝の連続テレビ小説「スカーレット」の舞台として注目を集める「信楽」。陶芸の里である信楽には、多数の窯元や美味しいランチが楽しめるカフェなどの観光スポットが点在しており、散策には信楽駅前などで借りられる自転車を利用したサイクリングがおすすめです。少し足を延ばしてかつて都のあった「紫香楽宮跡」を訪ねたり、上級者は大津市内からの長距離サイクリングに挑戦したりと、爽やかな秋風を感じながらのサイクリングをお楽しみください。(勾配やカーブが激しいので初心者はお遠慮ください)



ビワイチ BEST SHOT!!



QR codes and contact information for Biwaichi cycling and visitors.



FREE volume 5

COOL SHIGA

日本茶のルーツ お茶の栽培は滋賀県から始まった

信楽焼 大物から日常の器まで作るたくましい焼き物の産地

信楽焼以外にもある、滋賀の焼き物

イベントスケジュール

緑茶の製造は、摘み取った茶葉を丁寧に選別することから始まる



信楽 SHIGARAKI 良質な土に恵まれた、お茶と陶器の町

日本茶発祥の地といえば京都と思われがちですが、実は日本で最初にお茶が植えられたのは滋賀県でした。

高級といわれ、日本五大銘茶の一つにも数えられています。

西暦805年、留学僧だった最澄が中国から一握りの茶種を持ち帰り、比叡山延暦寺の麓に蒔いたのが日本茶の始まりといわれています。現在、滋賀県には朝宮、土山、政所など古くから続く茶の産地がありますが、これら「近江茶」の中でも信楽で栽培されている朝宮茶は特に香りが良く

また信楽では、お茶を飲む時に使う茶器も作られています。この場所にはかつて都があり、良質な土がとれることから焼きものの産地として発展してきました。信楽の土から生まれる温かい「緋色」が信楽焼の特徴です。町中に窯元が点在し、山間部には茶畑が広がる。昔から続く山村の風景の中、人々の暮らしが営まれています。

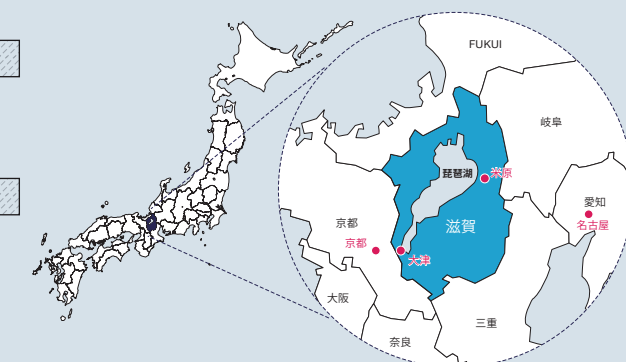
continued inside →

滋賀県について

日本列島のほぼ中央、古都京都の北東に位置する滋賀県。日本最大の湖「琵琶湖」を有する滋賀県では、水と共に生きる人々の知恵から生まれた独特の食文化、産業、暮らしが古くから培われてきました。豊かな水と自然が織りなす美しい風景は多くの芸術家を魅了し、また交通の要所としても栄えたこの地には、歴史ある寺社や城跡など、情緒ある町並みが大切に保存されています。

Easy Access from Kyoto!

Information about train routes from Kyoto to Shiga, including the Tokaido Shinkansen and local lines.



日本茶のルーツ

お茶の栽培は滋賀県から始まった



朝宮 — 1200年の歴史と山間の自然が育む銘茶

お茶が日本に伝わったのは約1200年前。当時の日本は中国の進んだ学問や文化を取り入れるため、留学生や、仏教を学ぶ留学僧を中国に派遣していました。その中の1人、のちに天台宗の開祖となる最澄が中国から茶の種を持ち帰り、滋賀県にある比叡山の麓に植えたのが日本茶の起源であるといわれています。

この頃のお茶は高級品で、上流階級の間で主に薬として飲まれていました。その後、茶を育てる文化は徐々に滋賀県の各地に広まります。山間部にあり、朝晩の寒暖の差が大きい厳しい環境と、花崗岩質の地層から湧き出る良質な

水が育む信楽の「朝宮茶」は、特に香が良く美味しい緑茶の最高峰として知られるようになりました。朝宮茶は昔から有機肥料を主体として生産されているため品質が良く、大量生産のできない高級品として扱われています。近年では茶葉の輸出も始まり、海外に住む緑茶ファンの間でも好評を得ています。

無農薬栽培で安全な美味しさを届ける



「かたぎ古香園」7代目の片木隆友さん。

美味しい、と言って飲んでくれるお客さんの顔を見ているうちに『この人達に農業のかかったお茶は渡せない』と思うようになりました。無農薬栽培を始めて最初の2、3年は茶葉が病気や害虫にやられてしまっ、全く収穫できませんでした。それでも続けているうちに木に抵抗ができてきたのか、徐々に収穫できるようになって。除草剤もやらないので土の中に微生物が生き、木がどんどん強くなっているのでしょう。化学肥料で育ったお茶は味が淡白に感じますが、有機肥料を使い無農薬で育てると、厳しい自然に鍛えられたお茶そのものの深い味わいが出ているように思います。

「一煎目では豊かな風味を、二煎目では独特の苦みを味わいます。」

世界には紅茶、ウーロン茶、緑茶など様々な種類のお茶がありますが、元になる茶葉が全て同じだというのはあまり知られていない事実かもしれません。日本茶の大部分を占める緑茶は、発酵を抑えるため新鮮なうちに火にかけて

蒸すのが特徴です。また、緑茶に含まれるカテキンにはがんの予防やアレルギーを抑える効果があり、日常的に緑茶を飲む人はインフルエンザにもかかりにくいといわれています。

緑茶の中でも特に日本人に親しまれているのが「煎茶」です。煎茶は抹茶と違い急須などを使用して茶葉をお湯に浸し、茶碗に注いで飲むのが特徴です。一煎目は60〜70度ほどのお湯で約1分半、二煎目は熱めのお湯で短めに淹れるのが美味しいとされ、一煎目では豊かな風味を、二煎目では独特の苦みを味わいます。緑茶本来のほのかな渋みや爽やかな香りを楽しむため、一般的に砂糖は入れません。煎茶は特にカテキンを多く含むので、殺菌効果があり、また口の中の油分をさっぱりと洗い流してくれることから、家庭でももちろん寿司屋などでも食後の飲み物として親しまれています。

かたぎ古香園

TEL 0748-84-0135 住所 滋賀県甲賀市信楽町宮内1090
EMAIL info@katagikoukaen.com 営業時間 9:00〜16:00
WEB http://www.katagikoukaen.com 定休日 不定休



茶畑を描いた日本画のパッケージも魅力。



色、味ともに優れたものが上質な日本茶とされる。

信楽焼

大物から日常の器まで作るたくましい焼き物の産地

暮らしに根差す美 — お茶文化と共に受け継がれる器づくり

古くから良質なお茶を育み続けた信楽の土は、この土地に根付くもうひとつの産業、製陶にも生かされてきました。今から700年ほど前、地中に掘った穴に火を入れる穴窯によって、壺や甕などの大物づくりが行われたのが信楽焼の始まりだといわれています。その後、山の斜面などを利用した登り窯の登場で大量生産が可能になり、また商業の発達とともに食器などの生活雑器も生産するようになった信楽は、古くから続くたくましい産地として日本六古窯の一つに数えられています。

1700年代に、形式を重んじる茶道よりもっと気軽にお茶を楽しむ文化として煎茶道が広まり、お茶の産地であった信楽では、日常的に茶を飲む文化が定着するとともに茶器も作られるようになりました。土本来の荒々しい質感と温かみのある緋色が信楽焼の特徴ですが、茶器づくりにおいては、お茶の色が美しく見えるよう白の釉薬を使い、口当たりが良いよう薄い生地で仕上げられているのが特徴です。他にも、一度沸騰させた湯を冷ます専用の器があり一煎目、二煎目と楽しむために小ぶりで作られているなど、煎茶を美味しく飲むための最大限の工夫が施されています。



朝宮茶の山吹色が映える大西左明さんの煎茶器。

日本中で愛される信楽のたぬき



作り手ごとに趣向を凝らしたたぬきの置物が並ぶ。

信楽の町を歩いていると、至る所でたぬきの置物に出会います。たぬきは日本の昔話によく登場する動物で、人間に化けたり、大きなお腹で腹つつみを打ったりするいたずら者として描かれてきました。

そんなたぬきが信楽焼の代名詞として知られるようになったのは、1951年。昭和天皇の信楽行幸の際、陶器でつくったたぬきを沿道に並べた様子が新聞で日本中に報道され、一躍有名になったことがきっかけです。

たぬきは「他を抜く」という語呂合わせから、商売繁盛や招福の縁起物として人気を集め、現在では日本中の店先や玄関で見ることが出来ます。たぬきの持ち物にはそれぞれ異なる意味が込められており、徳利は漢字になぞらえて「人徳が身に付く」、帳簿は「顧客から信頼が得られる」、大きな傘は「災難から身を守る」などのご利益があるといわれています。形や表情も様々なたぬきを見比べて、自分に合う一体を選んでみるのも信楽での楽しみの一つです。

信楽の陶器と文化をめぐる

信楽には70軒を超える窯元があり、町中には歩いて回れる範囲に登り窯や工房が点在しています。それぞれに个性的なお店やギャラリーを訪れ、タイミングが合えば、作家と直接話しながら気に入った作品を購入することもできます。初心者でも楽しめる絵付けやろくろの体験教室もあり、旅の思い出作りにチャレンジしてみるのもおすすめです。

信楽観光協会

WEB <http://www.e-shigaraki.org>



野積みされた火鉢が窯元の前にズラリと並ぶ。



山の斜面を利用して作られた伝統的な登り窯。

EVENT SCHEDULE

ALL MAP



紹介した全スポットを掲載

2019年10月・11月・12月の滋賀県内イベントスケジュール

秋季特別展 「動物美術館」開演!



湯次神社狛犬

人間にとって常に関心の的であり続ける動物たち。本展では動物埴輪や狛犬、仏教美術、神道美術の中の動物、近世絵画のかわいい動物など、日本の動物美術を系統的に展示します。

日付 2019年10月12日(土)～11月24日(日)
時間 9:00～17:00(入館は16:30まで)
場所 滋賀県立安土城考古博物館 企画展示室
(近江八幡市安土町下豊浦6678)
料金 大人900(690)円、高大生640(470)円、小中生420(310)円、
県内高齢者(65歳以上)460(350)円 ※()内は20人以上の団体料金。
TEL 0748-46-2424
WEB <http://www.azuchi-museum.or.jp/>

無料Wi-Fi
英語パンフレット

ボーダレス・エリア近江八幡芸術祭 「ちかくのたび」



近江八幡の歴史情緒あふれる町並みを歩きながらアートに触れる芸術祭。「あふれる音」「手で観る世界」など6つのテーマからなる各会場で、多彩な表現が私たちの知覚を刺激します。

日付 2019年9月21日(土)～11月24日(日)
時間 11:00～17:00
場所 ボーダレス・アートミュージアムNO-MA
(近江八幡市永原町上16)他5会場
料金 全館チケット・一般:1,000円・高大生:900円
一館チケット300円
TEL 0748-36-5018
WEB <http://www.no-ma.jp/>

※その他関連イベントあり。
英語パンフレット

滋賀県文化賞・奨励賞・ 次世代文化賞受賞者によるコンサート



滋賀県の文化振興に貢献した「文化賞、奨励賞、次世代文化賞」の受賞者によるコンサート。公演「山本恵理NYジャズ・トリオ『江州音頭組曲』、公演II「松本大樹ギター・リサイタル」。

日付 2019年11月10日(日)
時間 ①13:00開演 ②16:00開演
場所 しがきホール(大津市浜町1-38)
料金 一般2,000円 25歳未満1,000円(全席自由/前売当日
同一料金) ①+②セット券一般3,000円 25歳未満1,500円
TEL (公財)びわ湖芸術文化財団 地域創造部: 077-523-7146
(株)しがき経済文化センター: 077-526-0011
WEB <https://www.biwako-arts.or.jp/rd/>

たいまつフェス2019



滋賀県近江八幡市では毎年3月から5月にかけて約200基の松明を結び、火を放って神様に奉納します。1000年以上続くこの伝統文化を多くの方に伝えるため、会場で松明を製作し展示します。

日付 2019年11月23日(土)～24日(日) ※荒天の場合中止
時間 9:00～18:00
場所 ラ コリーナ近江八幡(近江八幡市北之庄町615-1)
料金 無料(しめ縄作りワークショップは有料1,000円程度)
TEL 0748-47-2045(まちづくり会社(株)まっせ)
WEB <https://www.facebook.com/masse.jp/>

無料Wi-Fi

花器と生花展



日本六古窯のひとつに数えられる信楽焼の花器を使った生花展。個性豊かな信楽焼と、四季折々の美しい自然を愛でる日本の伝統文化、華道のコラボレーションが楽しめます。

日付 (Part1)11月22日(金)～12月3日(火)
(Part2)12月6日(金)～12月17日(火)
時間 9:00～17:00
場所 甲賀市信楽伝統産業会館(甲賀市信楽町長野1142)
料金 無料
TEL 0748-82-2345
WEB <http://www.city.koka.lg.jp/6099.htm>

英語パンフレット

しめ縄教室



良いものを家に招き入れ、不浄なものが入らないようにと新年の幸せを招き厄災を払うために玄関などに飾られるしめ縄。ワークショップでは素材の選び方や扱い方を学び、昔ながらの方法でしめ縄を製作します。

日付 2019年12月14日(土)
時間 午前の部 9:30～11:30 / 午後の部 13:30～15:30
場所 まちづくり会社(株)まっせ
(近江八幡市永原町上8奥村家住宅内)
料金 1,500円 要予約。定員に達した場合受付を終了
TEL 0748-47-2045(まちづくり会社(株)まっせ)
WEB <https://www.facebook.com/masse.jp/>

無料Wi-Fi

錦秋の玄宮園ライトアップ



彦根城の北側に位置する「玄宮園」で紅葉を楽しむライトアップ。歴史ある日本庭園を回遊しながら、赤や黄色に染まった木々がその姿を水面に映す、晩秋ならではの美しい景色が見られます。

日付 2019年11月16日(土)～12月1日(日)
時間 18:00～21:00(入場は20:30まで)
場所 名勝 玄宮園(彦根市金亀町3)
料金 大人700円 / 小・中学生350円
TEL 0749-23-0001
WEB <https://www.hikoneshi.com>
※ 情報提供:びわこビジターズビューロー

英語パンフレット

石山寺 あたら夜もみじ



本堂、多宝塔などの国宝建造物と、2000本を超える紅葉のコラボレーション。切り絵や色とりどりのイルミネーションも取り入れた、歴史と現代アートが織り成す幻想的な空間が演出されます。

日付 2019年11月15日(金)～12月1日(日)
時間 17:30～21:00(入場は20:30まで)
場所 大本山石山寺(大津市石山寺1-1-1)
料金 600円 / 小学生 300円
TEL 077-537-0013
WEB <https://www.ishiyamadera.or.jp>
※ 情報提供:びわこビジターズビューロー

無料Wi-Fi

英語パンフレット

永源寺 紅葉ライトアップ



650年前に創建され、もみじの里として知られる寺院。枯山水の庭に、赤く染まった紅葉が浮かび上がる様子が見事です。この季節には、山全体が燃えるような紅葉に彩られます。

日付 2019年11月2日(土)～12月1日(日)
時間 17:00～20:30
場所 臨済宗永源寺派 大本山 永源寺(東近江市永源寺高野町41)
料金 大人500円 / 中学生以下無料
TEL 0748-27-0016
WEB <http://www.eigenji-t.jp/index.html>
※ 情報提供:びわこビジターズビューロー

英語パンフレット

BIWAKO HALL EVENTS



TEL 077-523-7133
住所 大津市打出浜15-1
開館時間 10:00～19:00
閉館日 火曜日休館
休日の場合は翌日、
12/29,30,1/1～1/3は休館
WEB <https://www.biwako-hall.or.jp>

2019.10.19	鈴木秀美 円熟のバッハ 無伴奏チェロ組曲 part I	小ホール
2019.10.26	鈴木秀美 円熟のバッハ 無伴奏チェロ組曲 part II	小ホール
2019.11.02	気軽にクラシック21 岩谷祐之 情熱のヴァイオリン	小ホール
2019.11.16	福岡光太郎 ピアノ・リサイタル Leidenschaft～情熱	小ホール
2019.12.07	白石光隆 ピアノ&トークコンサート こんにちは、ワーグナー	小ホール
2019.12.16	気軽にクラシック22 高見信行 トランペットの魅力	小ホール
2019.12.21	KEIBUN第九2019	大ホール
2019.12.31	びわ湖ホールジルヴェスター・コンサート2019-2020	大ホール



びわ湖ホールは、国内有数の4面舞台を備えた大ホール、演劇向けの中ホールや、アットホームな小ホールを備えています。最新の設備と優れた音響、臨場感を追求した湖畔の芸術劇場からオペラ、バレエ、ミュージカル、クラシックコンサートや演劇など、多彩な感動のステージをお届けします。

びわ湖ホール公演スケジュール
<https://www.biwako-hall.or.jp/performance/>

